

30

20

10

8

6

0

JAPAN

10

8

6

4

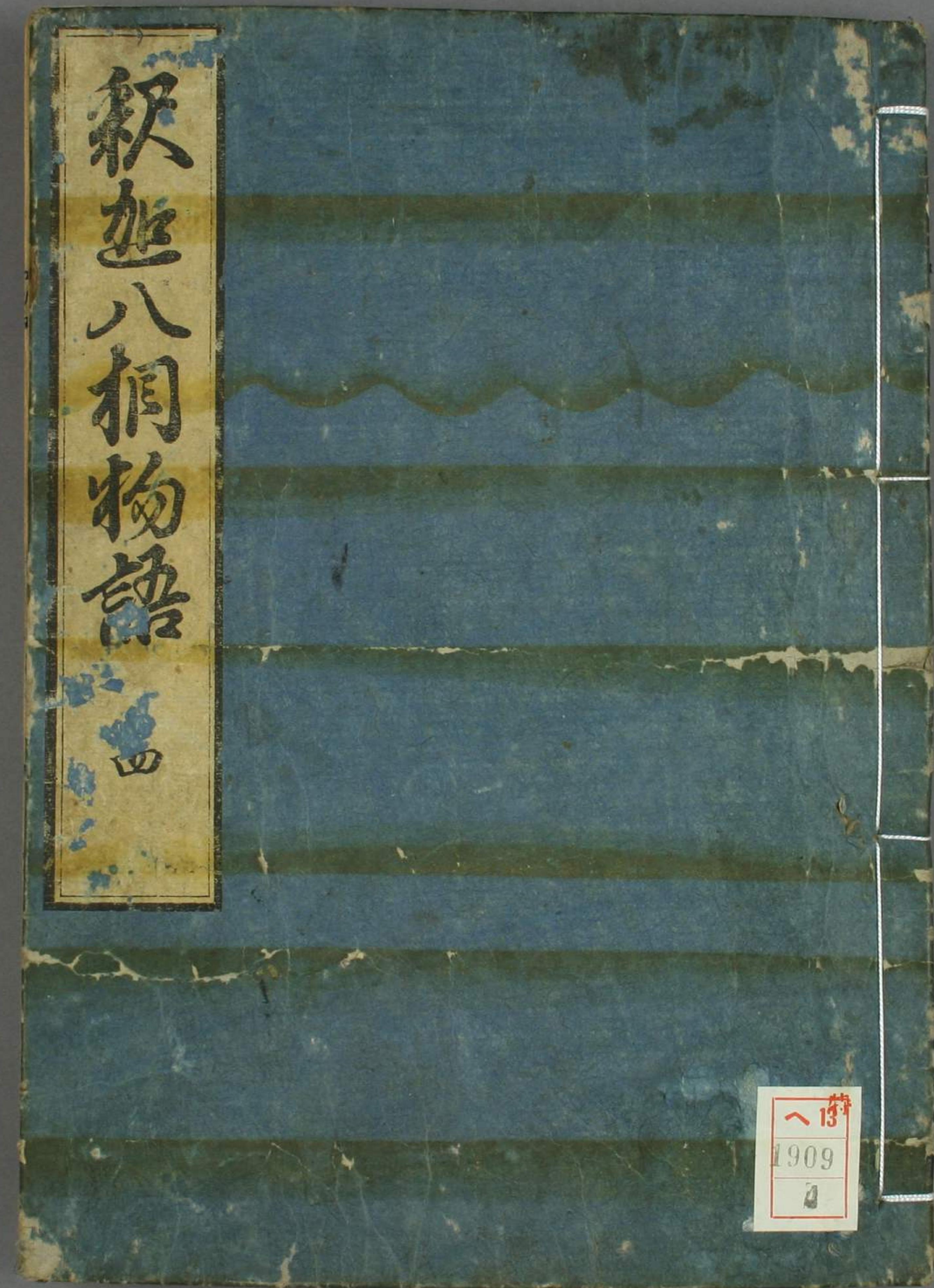
2

m

13
1909

秋遊八桐物語

八



爲也八相物縛等又自詮

一 玉宮よりゆきを降す

ニ 子は行ふを向す

三 般若は空か無れんよと云ひ

四 雪山よりすじを下す

五 浄飯大王がわくをもとゆ連よ年下よ

六 宮主の下へ奇物たりとて

13
1909
4

妙也八相拘縛耶ス

曰

ヨシタケ

曰
汝也毘盧藏乃はさうなことの先へてより
う手方へしらをなまつねとづくりてゆくと
みうちとくちとくしてまうり。月夜もかの静とく
朝敵乃あくまはづりとくめどらくとくら。新文よお
トリキは鹿野瞿陀深那輪陀羅女そのやうに
けぬあやへとまつやうこまくとじれひうきゆ
きやう經あくまうすくわくもとあんとて
とまく。あまごとくめくとくめくとくめく
とく入く。うかとくぐくやうりとく。みくくりとく
外あはうふくとくとくあたまうれとくとくとく

と父。一失くしてゆきありはもとまく
んとすこしはくみをまわる。かうにあ
がわひこえくまゆいも。こもかうにねをりとてお
人ゑ相人とめあひをくくせふ。人の身と
かく相を。ひよのからびりびて。絶壁の時もせう
めり。まことやきのまへゆ。もれもろ
まじゆも。ばあと歯うじて。徳ようけ。あ
まじゆとまくはくがくまくにむく。もめもたうくを
代うぐべとひひく。せりひへ。もりくひもと
ゆく。ゆく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
者。がく。がく。がく。がく。がく。がく。がく。
がく。がく。がく。がく。がく。がく。がく。

まわる。うらやまうりてはまかず
ゆきくやとあひてこもれに。まなばかま
まごとまこと。あがめうけあくまくとまくへり。
ゆとらんやとあまきふらがくてもくらうとくわ
ら。とづらくせんとさかくとまうおまのうと
とすまよせんとらう。ちまはうづくまくと
かどくのゆきよハムとくねのきわうりあうとやま
わをくらうとあはばやうあげくとせんとわ。みまくと
うあたまうり。まんぐくよハムとくねじくはう
ゆれんとくくまくとくよハムとくねじくはう
とくよ。まちのたらぬ。あはやうとくねじくはう
さうとくねじくはうとくよへむまくとく

さへとあつてはよの人にぎりへよへかきへま
ねひへ、ハ言あたへよひゆひゆひへて
一どくよをうりあつ、おへえいがくまへて撫
やよた母へ存まへ、わうひよくわくへ
せんとまくづくやふ、居あらう母へうひくの
もへありまぬくの浦やうかくすしもろ
うりゆりびんととめうりよだそやうくわくせん
ゆめしとくふうきわがれど、まくまくまくまく
トとくまくとくまくとくまくとくまくとく
トとくまくとくまくとくまくとくまくとく
あくまくとくまくとくまくとくまくとくまく



いつよきとありてましにまくげく。アラカ
ロウトヨク。アリシ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。
アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。アリセキ。

曰。おもむり。おもゆき。

おもむり。おもゆき。おもむり。おもゆき。おもゆき。
おもむり。おもゆき。おもむり。おもゆき。おもゆき。

ゆきあとちくはゆのゆにてひつて
とゆかぐゑし。仙経へりうそとゆは
ゆるれ不生ニ休戒。ちねまは飛
き。アキラム。別行もか一戒。よす戒。あり
早飛白氣あり。と云て飛。云爾氣あり。ニモ有
戒あり。と多け。自体戒。極度戒。如實戒
とと極戒の仙はと身をあさり。一戒。と在
ざりとせば、萬能戒。と云て。不淨をうなが
わ。たゞぐしくとけ。多と叶。戒めは
あり。と身をうながす。と身を修めは
ちもととせば。とよ。わすへりのと
くわま金す。わすへりのとくわま金す。

あま乃とたよぢをすしよりきを
まくらうたすひあらへりやあをすは仙氣の常春
とあゆみをひくうるすをすがらをすよしおもつ
きくにたまひてばまよりせんまへ仙人へ渡下して
あやまづくわくとひよほのやうもすと
たひうかくわくあまとくまそく事りけつとくわく
ふよはらうみくわくうくじとくわく
えのくわくとくわくまくわくとくわく
れとあれがなぐとくわくいわくとくわく
てはるもとくわくあふのくとくわく
まくわくとくわくとくわく

もおやうらとすりつけられたらとま
ひのうはあらどまくまは
影にて金剛輪と三面輪と
えてもえびしきびてやくと
あともあくとらわとすくめと
ト、陽達法輪丸成り、
物事こまゝ難事と麻と難事と
やうりがりあきとしとき
よきつりとあらうらのあくせ也
たまへかとよゆよううとあくき
ゑ・世間のゆきあらへがくづく



うのをとつやまの圓とらむくとお
なうじゆきとくらむくとあがつてわ
ふとあひつりとくらむくとあがつてわ
まへざあふとくらむくとあがつてわ
けよやじや春めあづだあらうり日中のえ
どのうんじゆとくらむくとあがつてわ
ひく一會あ起ぬを中を來や城白の酒ま
るはんかうとくらむくとあがつてわ
とくらむくとあがつてわとくらむくとあがつてわ
あとさよ先がのわとひととあくえせを
つるをくわとくらむくとあがつてわ
あくまむにわとくらむくとあがつてわ
たまくとほくとゆうと生れうりと傳とくに
つえあかよゆうとくらむく腰金あねのとくありよ
きだりべくとくらむく腰金あねのとくありよ
くうとくあとくとくあとくとく腰金
あとくとくあとくとくあとくとく腰金
あもひうのわとくらむくとくあとくとく腰金
わとくらむくとくあとくとく腰金
まとくらむくとくあとくとく腰金
くわくの肩よけとくらむくとくあとくとく腰金
腰金とくらむくとくあとくとく腰金
まとくらむくとくあとくとく腰金

と一戒もあらまつたまつて、うなぎと蟹と、トマトなどと
他家のものなどとおきうりのものあれとがうと。
あらだらトののまうまとうとおのるの魚うそは、うと
くさあさうしなましきりあめくねよこすわざと
例えとてよせとまともを取部りとひよと。

三

般若心経から仙へと進ふまき

されどわはんは人ハ豊富はとせんまわて。じく
ひとまうなまく角三とせのほりとてえ湯の瓶
きうとてえ達のとくとくとくあり。こそ又乃まへ
あんも因縁とくわくとくわくとくはなれとくだけさう
かくよ無の仙とひまうれ帝ア天乃ゆうじてれ
凡庸來作佛の國語とまくと一佛降あり故と

ぞくじとんじしと筋筋とはまうばよのと夫
宣の富とほんややかうあひとちとあう。け
らぬ人のむきとまうとくとくとくとくとくとくと
て。ほくひとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あ。あらじとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
仙とあわうと。黙善はとひあらかとくとくと
たつとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あるとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のめりとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
すうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のめりとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
れくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
金とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

一草木ひづれたのとあつて、照葉川アカハラを流す。こゝか
アリと照葉川は草木とよろとくとすが本川也。とあります
す。すらりと走る水の筋とあらず。國仕黒松と麻
林と青草。ぬるものあり。鳥鳴をきくる。鷺鳴を
きくる。そりてこゝをきる。かのうのゆきり。こゝの實事
アリ。不景氣もあり。ふほのは佐々木相馬。相馬伊達
親れにせし。さくはなはぬめあり。こゝはらのゆきりと
さくはなはぬめあり。こゝはらのゆきりと
アリ。あふぐどくあり。唐桑やまぶ葉樹とよぎ。一方
このゆきと本種もとくとすと。一日に二三度づく。草
木と金草。うねり水とすわくからとづる。ばくよ。草
木と金草。うねり水とすわくからとづる。ばくよ。



日暮あらばまよしのむ駒とばがはるかに野
まほすりげたさうえあくまて人金額を石とす在
石ありとまほの本とらへた。一百日ハ鑿の
石惟一百日ハ住居六せん一百日ハ開のとせん
物のうちふそひか。外のうちふそひ金ゆ。物の
うちふそひそれ神石のとせんあり。りどらすの御
相あり。まよあやまつとかき。玉乃いゆ。をき
まよあらまよしてつじて。仙多のはむされを
まよ。あのた布さねすきてそえゆくみゆきを
あくこられもよりもまよ。め金れ仙としに
てと氣のむす入なまえの日あくと。やせた儀
とそわ。かとまよれ。青角が望まねぐくにゆく
とく入かかとあら。暮の日あくとくとく。
わとのなまうだ。まといひとくとくとく。暮の日
カクアとヤセムヒ。さりあら。勧りとこだり。坐
まよが。そのあいと。し。うと。神とく。暮
たまうと。じ。能く。うよ。き。して。や。う。と
あうつじ。うた。あ。と。年。を。二。と。年
ハあく。あ。と。あ。う。青。の。も。と。と。年
色ぬの。は。と。あ。う。青。の。も。と。と。年
と。年。青。の。神。よ。と。と。年。青。の。神。よ。と。と。年
と。年。青。の。神。よ。と。と。年。青。の。神。よ。と。と。年
と。年。青。の。神。よ。と。と。年。青。の。神。よ。と。と。年

足繩の拂ひをうながすだらか事より
あれどもまことにばくしよまう。今
わちにせきのつゝとあらうを
行け。あれはもとよりはうとほ
しゆのへと物愧も下れりてからまくを
取らる。まのまのりあり。まくを
うきよれどもよろがる。たゞもとをもとを
とくやめをなすあるの志小浦。しのびり
よけむかうのまなむかふとしのばの重
きとせん。まきとせん。まきとせん。
まきとせん。まきとせん。まきとせん。



三
五
七
九
十一
十三
十五
十七
十九
廿一
廿三
廿五
廿七
廿九
卅一

國
蒙古汗國
汗國

あつて、一庵をすばらしとめたのへとすこすこ
おのづれりて、か勇めりて、とれりて、たゞぐる
くやくは、陰修陰難のをよむとす。一庵
とあわれりて、つまうりけり、がととす。一庵
は、坐りて、またまづう坐して、いもやが、
たすもあたましにわがる。きらきらとくわ
らわやとをこまむを利

ス、浮城を告わらむと、アタマ、
アタマ

あくは、自ゆきあらんが、廢かとす。ま
じありとゆと、まつせ。が、ト、やくす。まくわ。
まだげ、やとせしも。天せと、まつて。海の浮城
六年を、くじかて、告げふ。まね事の仙事。

アヒト、あらわれり。が、かくは、建堂をす。は、
だんとくよこ、くわくわ。の、六のものも、さとし
て、又、書山の、ゆくとて、大般と、わらつて、山中とも
跡が、廢川谷と、よ原す。あらめ、うまく、うま
うびあらえ。あらき風あり。わづれと、うと
里うが、さけむ。うふうと、ひく。門の、うう
えし。えと、あらわしゆく。ひく。よ天あつげ。う
おまく。車たとえ。よひく。門の、うう
則が、車と、つたらむ。ひゆく。よ天あつげ。う
つまく。と、まき。うしを。なまく。と、まき。う
そ。まき。うそ。まき。うそ。まき。うそ。



はありをす。わまくすと云ふてやうす。いふ
のよりせたまふもじきだるあといむつるよしれ
じよきじよかう。わまくすと云ふてやうす。
いふせたまひつうだるがうとゆふすと云ふす。
かまくつじとうがとれきいふまももゆのゆの
みとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ゆりにさたりされまのゆるあはくすあは
いりあつひいと首ともきくせたまひとつら
かまびゆゆきとれきとけのつまももを
うどうへくき。うきあわきりふきげうれま
わきんまたりあく。のほりとく色ねらわ
へまたまひくおのゆりとくわげらきくま
おきをふじてゆゆじきうかじまくとくを
まひくとくとくとく。がくれと一がくれとくとくとく
集も大樹。根條枝。叢とく。名。散。日。根
離相不和。局。別。經。本。後。然。とあるらしく
かられり。まよわをやく。まよわをやく。大
用。まよわをやく。まよわをやく。大用。
やくばぐる。まよわをまよわ。まよわを
まよわ。まよわ。まよわ。まよわ。まよわ。まよわ。
まよわ。まよわ。まよわ。まよわ。まよわ。

ままでりきを下へ説きや丸ぐのゆゑ
やもみつとてあらざるにめよ極きありゆ
ごと摩せ隣れとゆづらをひばりけ
あらくあさやくゆりてしき成こよ。隣川を
すがなよかうとて後どさればあの方より
のゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
ふ。もやれゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
す。あはれゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
きげきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
きげきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
きげきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
きげきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
きげきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき
きげきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆき



たまへてまくらを枕ぐやうにあつて
寝ててはまよ金子としのきのまゝひがくと
ゆきのまくらをあらわす東海佛國を算
圖あつまうてまのまよわざりあらわくこづけ
日とあり。まくらとまくらとまくらとまくらとまくら
をまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら
をまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら
にあらよび金の表とたじけ數量のあらわとまく
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくら

身勢ゆくよしもとたゞのうへと身をもと
てややく。それをわざつあるひあくびりて形をあが
めん。乃そくゆくとゆこせうすとあくびりを
いまとあそびひくとさへたうじづきのあくま
もとがふかくとくわく修あつ。まじめくあ生
りてあそにあくにあくと沙へど。あくもとほきせぬ
あくとひくとくとむとねもくとくれ。おもきく
あくと生えゆき縁取はせ。おもきくとくと
自麻減相放ひ。着色石二取て一ぬ自放まをる一
風化難とどき。たまゆくがくと。お難耶とくり難
だらうかひうとたあびき。平見と天せも難考



家也。八相如是。中人作。

故也。八極物之歸，莫之同歸。

- 一
二
三

歌也ハ相物也第六

一 ちよ雪の墨とらを経すま
りまばきまぶせり仙人とかうて度り薩摩は
とぬもととてもよろどくひたまふゆと
とて陰経まんじつごくやおとこだまばむ
つこりうしとくまと黒のかどやつむらうつ
くましゆかうどとぬこあくだりとくせき
よひゆかうとくさくうとくちのアダムにあら
うとけすくまくまとくわうあうあうけよきう
てあうとくやとくへうむけよくあうじくらに
あうじまうま一人あうねいよくわうのあ
あうゆとうれとくわうとくゆうが一切のとが

六十ヶひのりもかくじよまやく海の内へ出でて
あたはまほせよあざのれきばみだよくの敵
およそもともちよと服年鼻舌心まへらまくえ
御へんされらわらわらやまとねほくすいにの敵
とくとし百千方のようひひれたりまよひがあひ
もあかうとさうとさうぞめ情ゆ合ふうりの敵
あふれしんあきゆくよがくてもうくとげゆを
萬矢射じの敵あててニ毛鷲の言ひを結ふ
まのうをあつまうの敵あまうに、ぐんくまでや
うの波とあひ、櫻あひのあし山あり、どもつれむ
をそとかれまく、うもゆりを、うもゆりばるま
えられけり、わき角とよろよろげじけりのま。

金剛力のもうぐんうそとととと勧すうとつが、
勧めうるまのとめうういるうの、徳のなしけわ
あうぐまそ、も和のううううううううううう
月乃山やあくひ鳥と毛ひうりあきと毛ひ飽ひ家
とよくが、あるひあくひ鳥と毛ひ飽ひ家
人ひ猫属しりあくひ鳥と毛ひ飽ひ家
うううううううう、競のうそをわひまくかく
雪乃山ととととととととととととととととと
ううじめり、佐房うりはぬうううううううう
界ひが枝峰のやうそととととととととととと
まほく下に船主のあてをあう、ううと毛鷲の三
段と号すてたえせぬほの峰のうり、我ひあと

多うとぞうけめやくはりをもて申
みち前めりもとあくこふらをなまへおも
のうへゆる下へわたりがくおやからまうすうめ
ぐるやあ周邊のゆ満わうやらんと鹿嶋證教とゆ
すくまひめをここ鹿嶋としわけと證教とゆ
や鹿嶋かよをほめん鹿嶋證教とゆ
こくのじりもくとてほまくまつまきうのまく
ゆへせりへりたまよりひくけにゆるむけくね
て、喜風をい乃そつりむかへも山のやうおひわ
らゆめすひなまくとわづくかくはるま
曰 韩雍燒志よあきをもとれ
りつあつどみおもれ數えよくじゆくひき

三
辨雅燒忘よゆ色あざれ一牛

かくしてまことに也とてくらべ
ひだりのまことかとれがちうてつ
まことかゆをとやとれがくじへいめくとどもら
たすくまどもやゆをとつひぢよれあ
あつゆあらじよれ
ヤリヤム
金利はとつかあたうくばもとだるわんとこうと
さんじよきまよととを
すきくらげたいたいとれ
め金利もたきこのもととわくよ
りじめ金利もたきこのもととわくよ
ちくはりまきのれ
ぎやくはりまきのれ
ハシモトヒコトアキラ
ハシモトヒコトアキラ



いはく
の爲を乞ふ事あるとへめ鐵塔を參る
はあまもうとテテテテテテテテテテ
参日中假參の行。一見にうそび入る也
金毘部。二昧と假參の事也。三昧と宿泊伴
郊ニ昧アニ東方品乃うんざりとあざつて坐
とかねうかうかうかうかうかうかうかうか
主室のとばかり。うそじらべの主室之御事も
相手にれず。うらとよ官ゆきはれいと
あむまむものと空氣と主室。して能たす所合ひ
べきよりよりありゆだんわくぐどよればじゆ
とくとくいひひひりりりりりりりりりり
うて吉山園のとくとくとくとくとくとくとく



大手とおもふ山とあらわす山の面をなす
よしとてはとてはとてはとてはとてはとては
ひたすらにたまつておき八面の面がうるさ
にあらへどしてとてとてとてとてとてとてと
あらきふさんみ。戸をくわだまをさかん
とのこりへゆる。下へ下へ下へ下へ下へ下
てゆる。我はおもすくて行ひぬ。金木の如き
とくらげ。さらき。とくらげ。さらき。とくら
ぎ。あんぢが金木。とくらげ。さらき。とくら
ぎ。あんぢが金木。とくらげ。さらき。とくら
ぎ。あんぢが金木。とくらげ。さらき。とくら



黄櫈山の事は、高麗を安東我安と大兵大將
さんとすてあらのものもねども力も弱たまうわうと
主あるまじ也

松平八相送経中ノ御

歌を八相の後第七日御

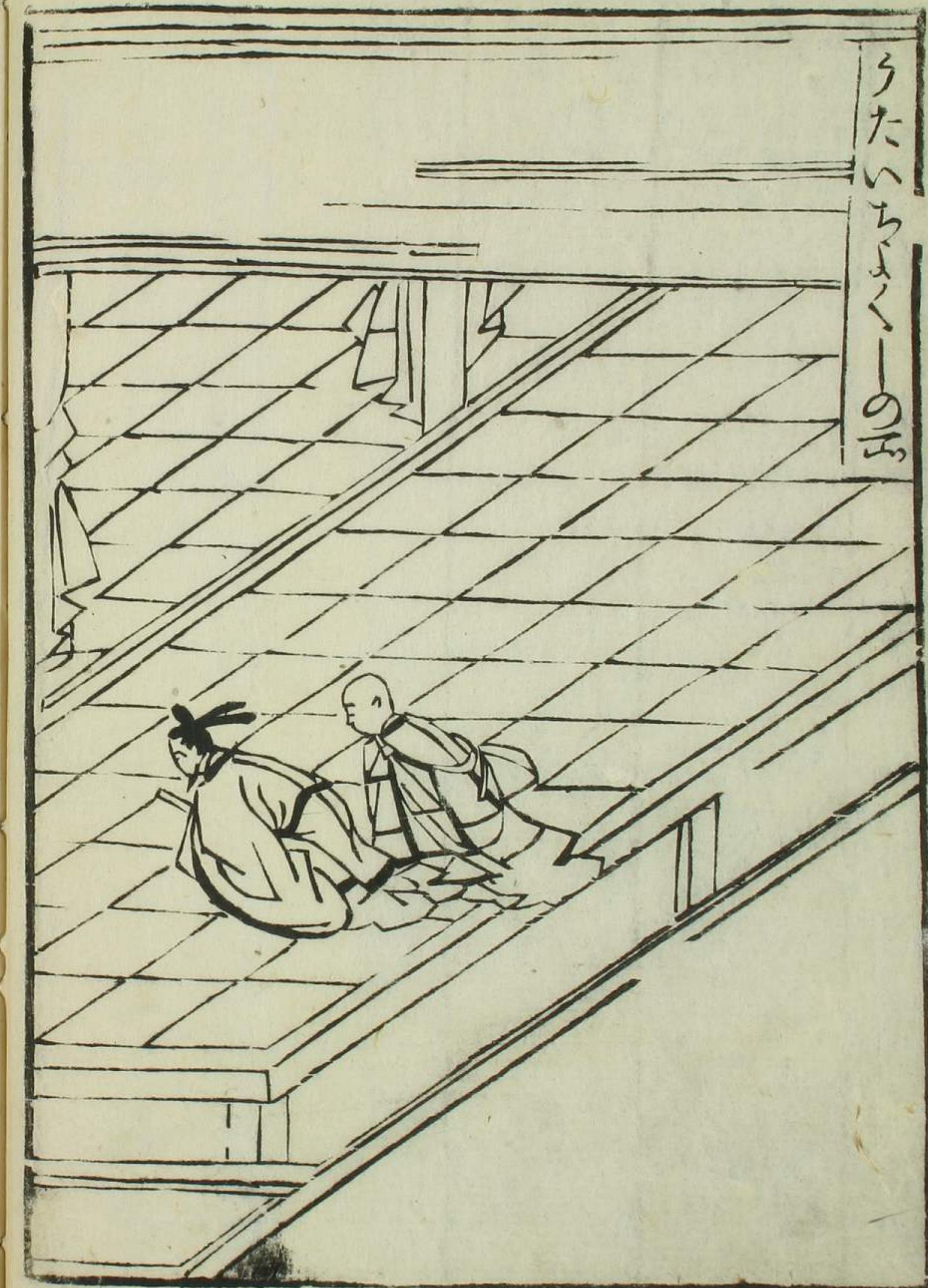
- 一 鹿道を駕ひかえ城へせゆく
- 二 耶詮陀羅女に懷妊の事
- 三 懐墨玉のうと女房まくは仕事無事
- 四 竹葉の陽山へ入らせぬいとまくは翁野の事
- 五 離るゆく沙羅法華道演説す

歌也八相揚名草七

二
「難邊進出あひかびく城入せ候事
珍れらもと雪絕絶山ようをたまひ候か
城乃けらうすてあ度取南山乃じうよわく
たまふる葉先走一て侵様移絶ホ一あ寄奉
あやつをして御弟子よゆくらきうりそれらを
あがて山ようをまうひ移走うたたぬよ般舟味
とどを珍ひ金利弗同里せんぐらして侵様
一百六十人わざて御弟子よゆくらきうりを
め東ハ御弟子よゆくらきうりあくまひて全
湯水物耶尼國度鶴毛深經密多かとせり
一こすひくや風の桂木とぬうごまわづたま

は多々紙耶と云ふ事ふれどもひ舍利弗とは
仰てなされてが如く誠に此うらうだるを
りうそまうせんわうはナニ年がわづかあゆりと
ゆきと先おゆりとうじ假あり。即ち其とど
く向きてハシムウカ御うの。やうてんのと
きのとくりんわう。假説夷びねしことら
やうだりとゆくよびうとまうりんわう。假の
じやうりんをまびとさうへたまうて。うと
んりもゆくふひくとれりえまわく。た
わへ假傍とつまを繕りつ。わまうとらむす
をもハ年ひくとめとほとあゆりまやま
ゆ一たまひとゆゆ乃えとあゆりとよろび
のゆれまゆとびき。たはれととむむけ
をもあきつゆ。やうてあきとアゲ。ゆゑ
ぢぐくゆて。まゆと年月あう。新まよ。新
たまう。ときうたのゆとけのゆとまきば新を
とをとす。もくう。たゞとて。あくととの
つんぐとがうつう。金利奉とつま。うだる
ほくやとけと年月あう。新まよ。新
たまう。ときうたのゆとけのゆとまきば新を
あがまう。うんぐのたまう。かくととぞ
あがまう。うんぐのたまう。かくととぞ
とゆくゆとたがみととれまう。うだる

うたひちよく一の



おとこひなのえんぐと、おみやげとおまわせ
りとおもろいれじまづくまもとうじゆす
新えよさんとだくひがくはまーどと、お新を
とあまへゆくのえんぐたまきありふあ
ちだまへ湯よすとくらま、新様よへてこを
くよまかうだぬかやくとくねうとおむを
とせうかうめいじまくよつとうまくとく
のほりありみくととくじせうとくまく、月をま
まと人官人ほ下よつうがまをうげきとくわ
らしよせとくざうとぞせうまをうさんとくわ
くらくまわすとくまをだまくとくま

おひみゆとくまやれうとくまうとくまを
んどのあひまぬハ沖くことだもたとくぎりきく
ゆかくは月をまのまくまくとまくつがくの
よろこき新郎まくわのほりと新えりくよ平
二ノうきまくね百人の官女は女あくとく姿
あふりきくまくとくとくとくとくとくとくと
くまくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

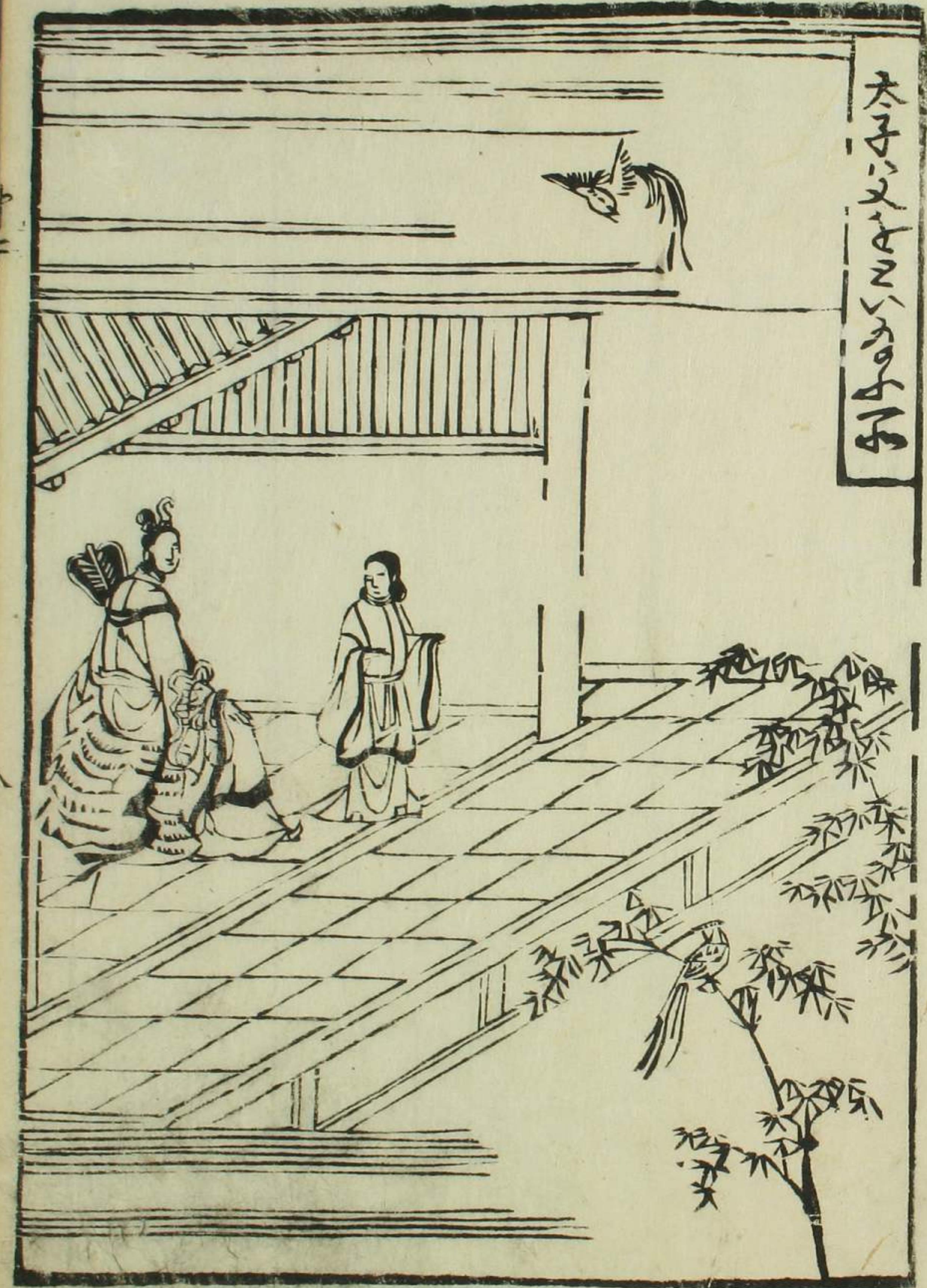
ア新輪院雅喜の事

かふめとたまわうと新うちおれりまくま
たら女の方のと申くつてえふすめうとくと
子のよれれとまくまくまくまくひきげくせ



かくもとまうおまんこをとくにまち一つをき
くらむとまどりてがつまととだてゆくうるをか
まことのりゆんで御母のむのやくまよねりを
けりうわふあきあれぬをよかくこいわゆ
きもともとめあらぬあらゆどとがくまゆうじ
やこまくほとくわすありぬまじとくまし
ゑまくほやあむのたまはじりとくま
アキトヒムヤモテ御母の又まゆ
あらやくもやうもよひもとくちりとくま
づらもあおなまよがくもとくわとのとくせき
くわまくとくとくとくとくとくとくとくとく
あらまくとくとくとくとくとくとくとくとく

太子ノ文をいふよ



凡そのうちあらざるあすがわいきやうとて口
ようへたまよとてあまごへせものどと
ワやふ原のたまはこうとこをてホヤレ
うとへやはる年の年月をうるわれは文三角の西
ととくのまきかへてあがめもととととと
ゑのりゑとらげのんとらぞからひあらざりと
ゑのくわおりをひとゆくわらうとくりゑ
ひそりとくわらうとくりゑ
たゆりとくわらうとくりゑ
まよくわらうとくりゑ
さりぶけえまよたいたぐへじとのくわらうと
せじくわらやくわらうとくりゑ

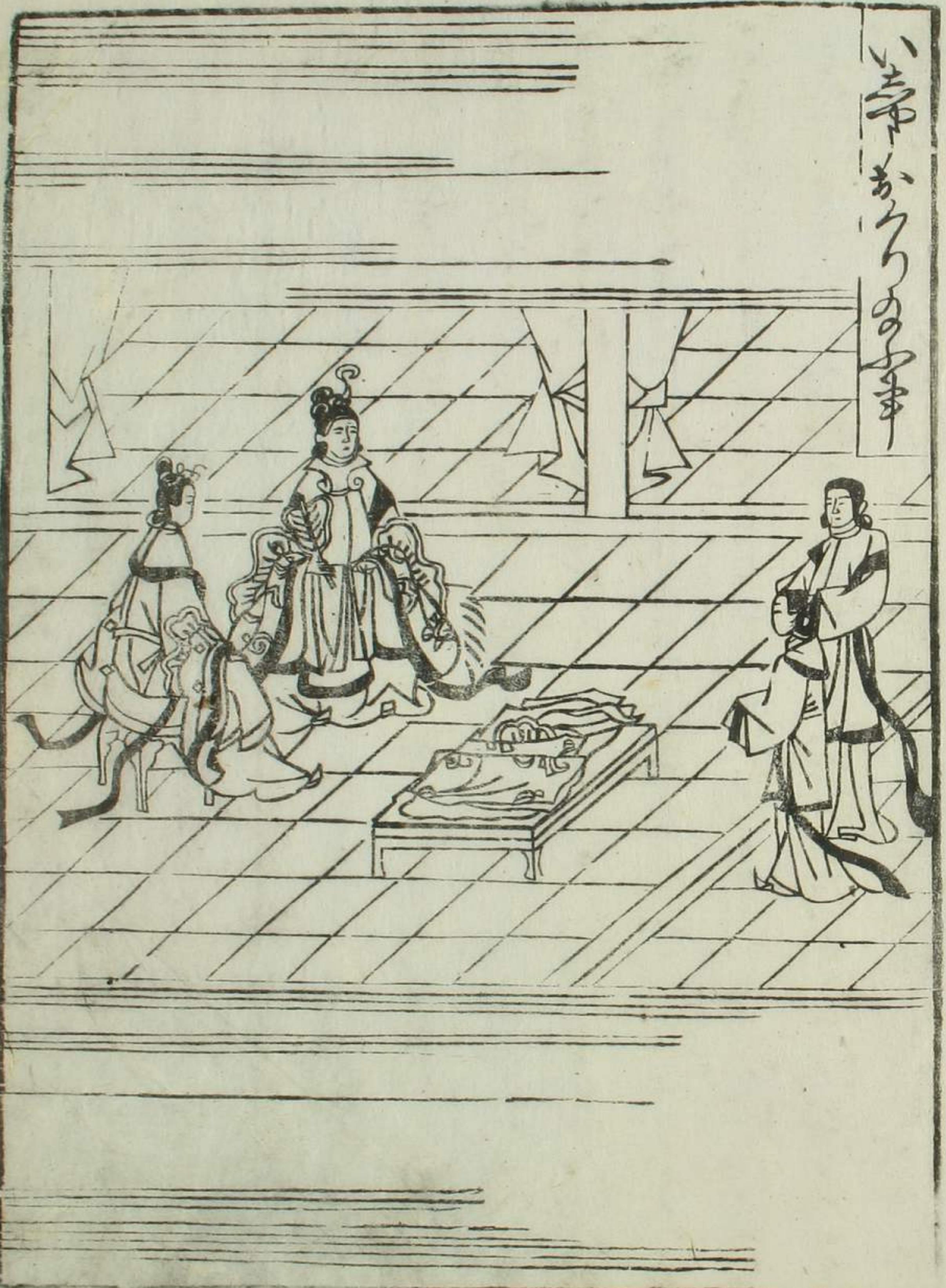
四

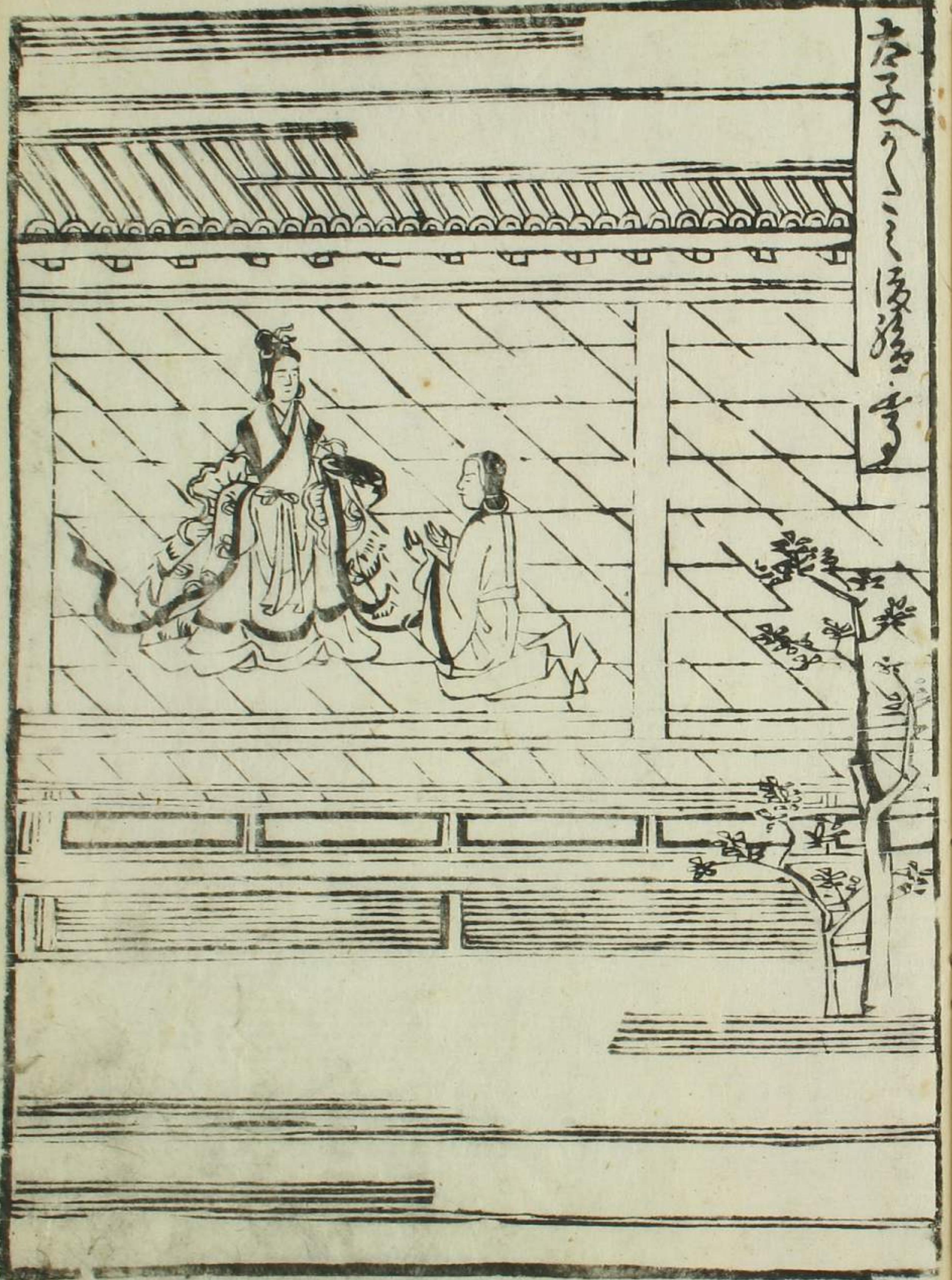
憲書事務官へ西は事節

まわるく用意のまやうとまへにまの全
紙とて新文のくよひつひととくらむ
まよもつとくらまよひつひとと二方ひめま
十二分とうる百人の事務官は月事務官ま
く務事務官はうぢんもよほくよひくわらうとれ
りくわらうとくのうみ食事事のうじくわらう
やうすきでみがく事事のうじくわらうと
まつよゆうり新事務官とくことんべとく

まぐの清くらわに色ゑのうととせんしもく
えむと見され、厚けびんす。みかく、ひきり
一とじりとおもふりとまづりあり。とくとく
ひやうとじりとく。ひくよをまづりきくさくま
くわゆくせんかまくはあくよばかりあかまく
おまくわにがくれんばうあかまくとだこまく
おそれてむそく厚くくめらくうあくろくまく
ゑあくまくはうくさんかまくくうだりーおほく
日ひよやうくうりううだれり。年ひとせいへすとを
ありうとわざわざのあとよせひのゆきこ
くくうじくのまくあくはあくまくにあくまく
車ーどうのゆーだひゆーまたわく

八葉あくらみ手本





じ一経のへきをまつし。あまこととくらひとくわぢて
ほんじいとアセどもよし。のまはれを下へま
あのもこまでもうまくや。おのともも
くつとくとくけとくまのひ。又よきわあひを
よそくもくじめりトクとくま。トクとくまのト
とくせんとくりあも。飛也くちねまきあまば。あ
とゆとくまくとくま。花りひだれをまくや。とわ
くまとうくまとくま。山乃すとくま。山乃すとく
ゆふだ。がのうか。や。のた。母のゆくろう

ウタヒ

四

や東又陽山へうをゆひまには對のる
ひとが大陽山の日本からまをくらひのりへあま
みゆことくらしき。神とく絆とくくとくうや
ごや和也年をめ東洋が自金小ゆ。まをく
かくらと見まくら。るのこゆまへや。むをくら
ぬまめのくらえ。まうが年とく。まくら。年とく
年とく。まくら。年とく。年とく。年とく。年とく
つ飛也。まくら。のゆとく。や。とくまくら。年とく
とまくら。とく。年とく。年とく。年とく。年とく
年とく。年とく。年とく。年とく。年とく。年とく
年とく。年とく。年とく。年とく。年とく。年とく
年とく。年とく。年とく。年とく。年とく。年とく
にかくまくこまひがれよとまのゆ相がとを



如來也

入道



あらすじある。だだうすとあらすじそ
きあらわすとがうてだむらのまほそかひ
くまくまゆすありまそも静めまはるる
人の聲とまよふとおとこにまわるいとひのと
とりぬとまよふとおとこにまわるいとひのと
みるをもあひとおのとがおとこあ
ふ二百人が身のあなとおとこにまわるいとひのと
筆幕ひらりきももいじかうてうとそうざんがいと
たあせんとそろく又酒うさけのすとおとこにまわるいとひのと
まわるいとおとこにまわるいとひのと
ゆうへもまにまくとおとこにまわるいとひのと
かけとおとこにまわるいとひのと

あらすじある。だだうすとあらすじそ
きあらわすとがうてだむらのまほそかひ
くまくまゆすありまそも静めまはるる
人の聲とまよふとおとこにまわるいとひのと
とりぬとまよふとおとこにまわるいとひのと
みるをもあひとおのとがおとこあ
ふ二百人が身のあなとおとこにまわるいとひのと
筆幕ひらりきももいじかうてうとそうざんがいと
たあせんとそろく又酒うさけのすとおとこにまわるいとひのと
まわるいとおとこにまわるいとひのと
ゆうへもまにまくとおとこにまわるいとひのと
かけとおとこにまわるいとひのと

たましもんじく見とくゆきうわかめのまくさうに
いづれふみのそとくへてちうりよどくとめくは
あまにわをうやう、じうかあくらまにかうをとよ
きはせ事よまつをあぐまのそあうじとむら
てよづらめりあくざまく三とまをあざりごと
かうれそがくよせたまひつあくとだくかれ
あまにあくくのびりと行けりとがくドケのと
船かせ車の高あくにまちくはるの神とゆきと
てゆふととせたまがくやふ車かくとくのあと
つあげきあたましゆくあまとくとくへばんじだら我
せり一がくとくにねんのりよソクがくとくべと
くまくとくとく



乙

雅好之物也。故其後人復有此者，則必爲子雲之後也。

國とちうど。さうはまづかと修ののかぢり
アリとす。いよモ底乃ねんじきとす。さうが
ぐくしもくわの底。よすひ。かひののうとす
やうがあく。ニテ。國主のやんばゆとす。と
ぐくあらうゆめ。とす。あくくとす。たうくと
あくくとす。父母のせんげきとす。とす。御
奥のとす。とす。とす。とす。とす。とす。
せむとす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。
て。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。
とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。
とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。



生のゆびをとくべて地獄もよほんのま
とあり。力敵うやうとあり。それと初生のまを
すくめとて人傷ふるを尼高タカシマと
云ひ。あつまへてあくして修相作樂あるなり。
うふりや半三のゆゑあらかうるてれ
まれまつてやうきと。がくといたくらやまし。ま
金門えいあん角ツバてあり。しやくおがくと。ま
れうゆきと。うべまくと。萬葉を西へ
有と禁タブと。がくまくいまと先づ。而
ひく事と。おとひくふに。のせんと。よ
りけの羽アヒと。あり。あはだえいよへり

せんのうであつてあたまにかくはるはる
ゆくとひはあまとひつりがんじてきのわ
らはだましひくせりかうあふどもひそり等の
法事一一をすく（せきすく）

